

Info 1 神鋼記念病院呼吸器センター地域連携講演会

- ◆ 日時：2016年4月16日(土) 17時00分～18時40分
- ◆ 場所：神鋼記念病院 呼吸器センター5階 大会議室
(神戸市中央区脇浜町1-4-47 TEL: 078-261-6711)
- ◆ 講演：「COPDの包括的治療について」
座長：神鋼記念病院 副院長 鈴木 雄二郎
演者：神鋼記念病院 呼吸器内科長 松岡 弘典
- ◆ 特別講演：「進行肺癌のオーダーメイド治療」
座長：神鋼記念病院 呼吸器外科長 榎屋 大輝
演者：香川大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌外科 教授 横見瀬 裕保 先生
- ◆ その他：・日本医師会生涯教育認定講座 1.5単位申請
・神戸市薬剤師会東ブロック生涯教育研修会として
日本薬剤師研修センター受講シール 1単位取得 予定
- ◆ お問合せ先：神鋼記念病院地域医療連携センター 担当：浅田 TEL: 078-261-6739(直通)

Info 2 第19回 研究カンファレンス

- ◆ 日時：2016年4月22日(金) 18時30分～19時30分
- ◆ 場所：神鋼記念病院 呼吸器センター5階 大会議室
(神戸市中央区脇浜町1-4-47 TEL: 078-261-6711)
- ◆ 講演：「フローサイトメトリーの臨床への貢献」
演者：神鋼記念会 総合医学研究センター 吉岡 佑里子
- ◆ その他：日本医師会生涯教育講座 1単位申請
- ◆ お問合せ先：神鋼記念会 総合医学研究センター 担当：兒山 TEL: 078-261-6711

Info 3 地域医療連携センターのご案内

受診および検査予約のご依頼は『地域医療連携センター 地域医療連携室』をご利用ください。事前にご予約いただくことにより、当日スムーズに診療が受けられるよう手続きさせていただきます。地域医療連携室まで、電話またはFAXにてお問い合わせください。

■ 外来予約・検査予約・各種問合せ

TEL: 078-261-6739 (直通)
FAX: 078-261-6728
受付時間：月～金曜日 8時30分～19時00分
土曜日 8時30分～12時00分
※ 時間外は078-261-6711【代表】までお問合せ下さい。

■ 救急受診・転入院問合せ

TEL: 078-261-6927 (直通)
FAX: 078-261-6728
受付時間：月～金曜日 8時30分～17時00分
※ 時間外は078-261-6711【代表】までお問合せ下さい。

Medical News

2016年4月
Vol.106

Shinko
Hospital

Contents

- * 特集 [嚥下機能を維持しよう]
- * 感染症科医のつぶやき
- * 開業医探訪
「医療法人社団 竹内内科」
- * Information
・講演会のご案内
・地域医療連携センターのご案内

神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して、皆様に愛される病院を目指します。

基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救命医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1-4-47
TEL: 078-261-6711 (代表)
FAX: 078-261-6726
URL: <http://www.shinkohp.or.jp/>
発行責任者：理事長 山本 正之
編集責任者：神鋼記念病院広報委員長 山神 和彦

講演会などの
詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院 検索

<http://www.shinkohp.or.jp/>

[特集 耳鼻咽喉科]

嚥下機能を維持しよう



嚥下機能を維持することは 食べるために最も重要

食べることは一見簡単にできます。しかし、年をとると確実に食べる能力が弱くなってきます。食べるために必要な動作は次の3つに分かれます。

- ① 食べ物を口に入れる(摂食)
- ② 口の中で食べ物の形を整える(咀嚼)
- ③ 食べものを飲みこむ(嚥下)

このなかでもっとも重要なのは、嚥下です。認知に異常がなければ、食べ物を口に入れることはあまり問題なくできます。生活すべてに介護が必要な人でも、「食べてくださいね。」と口に食べ物をもっていくと、ほとんどは口を開けてくれます。また、噛む力が弱くなっても、食べ物を工夫すれば、飲みこめる状態まで形を整えることはできます。つまり、これらの動作は周りが助けることができ、ちゃんとできているかも確認しやすいのです。

しかし、嚥下は自分の力だけでおこなう動作です。周りは助けることができます。しかも、しっかり飲みこめているかは、外から見てもわかりません。ですから、嚥下機能を維持することは、食べるために最も重要なのです。

嚥下機能が低下すると おこる問題とは

① 誤嚥性肺炎

「誤嚥」とは、本来なら食道に送られるべき食べ物や唾液が、気管や肺に流れこんでしまうことです。誤嚥性肺炎は、気管に流れこんできた異物を足がかりにして、細菌が肺に感染しておこる病気です。この誤嚥性肺炎は高齢者の肺炎の約80%を占めます。

肺炎予防で、ワクチン接種がさかんに宣伝されています。しかし、予防接種では高齢者の肺炎の多くは防げません。肺炎球菌ワクチンは肺炎球菌以外を予防できませんし、そもそも肺炎球菌ワクチンで肺炎を防ぐことができるかどうかにも疑問の声があります。

世界的にみると、敗血症、髄膜炎といった重い肺炎球菌の感染症には効果があることが知られています。しかし、市中肺炎に対しての効果についてはまだはっきりとした評価が得られていません。しかも、誤嚥性肺炎の場合、肺炎球菌とは異なる嫌気性菌によっておこることが多いのでワクチンで予防することはできないのです。

また、口の中をきれいにするだけでは誤嚥性肺炎は予防できません。口の中をきれいにしても、誤嚥を防げないからです。食べ物や飲み物が気管に流れこんでしまうと、肺炎はすぐにおこってしまいます。口の中をきれい

にすると、唾液中の細菌は減るので誤嚥性肺炎を減らすことはできません。しかし、きちんと飲みこめなければ、誤嚥性肺炎を防ぐことはできません。

② 窒息

窒息とは、大きな異物が気管に入ってしまった、呼吸ができなくなってしまうことです。この窒息事故が最近増加しています。窒息事故の死者数は9,582人(2013年)と不慮の事故で最も多くなっています。そして、その死亡者のほとんどは「飲みこみ力」が弱くなった65歳以上の高齢者です。

③ 嚥下障害

嚥下機能が低下し、十分な栄養摂取ができない状態を「嚥下障害」とい



耳鼻咽喉科 科長

浦長瀬 昌宏

Atsuhiro Uranagase

平成15年に神戸大学を卒業。日本耳鼻咽喉科学会専門医、身体障害判定医師、補聴器適合判定医師などの資格を持つ。

います。いったん老化で嚥下障害になってしまうと、元通りに食べられるようになるのは、かなり難しいです。なぜなら、栄養摂取が不十分になると、体力が低下し、体の機能を維持することが難しくなるからです。栄養摂取が不十分な状態で、嚥下機能を改善しようとしても、嚥下に関わる筋力をつけることはできません。

高齢化により、嚥下障害の患者が増えることが予想されます。しかし、嚥下障害の予防策はまだ不十分なのが現状です。現在、嚥下機能を維持するために、高齢者施設で行われているのは、くびや口を動かす「嚥下体操」や「口腔ケア」です。しかし、これらの訓練には、最も重要な、喉頭を意識的に動かすトレーニングは、含まれていません。ですから、嚥下機能

があまり弱くなっていない人がこれらの訓練を繰り返しても、嚥下機能を維持・改善することはできません。

将来のことを考えると、嚥下障害になる前に、高齢者が自分自身で、嚥下機能を維持・改善できるしくみを作るのが重要です。しかし、そのようなしくみは、今のところありません。

嚥下機能を維持・改善する活動を行っています

飲みこむためにもっとも重要なのは、喉頭がしっかり挙上することです。しかし、そのことは一般的には知られていません。そこで、喉頭を意識的に動かすことを中心に、嚥下機能を維持するトレーニングを『神鋼ケアライフ』の高齢者施設で指導しています。一度、正しい飲みこみ方やトレー

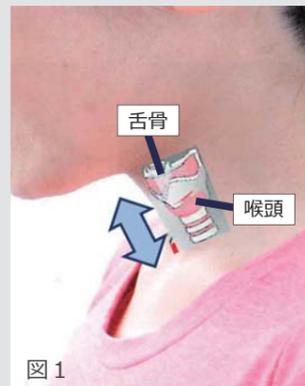
ニング方法を理解すると、ずっと一人で続けることができます。継続的に行ってもらうために、嚥下トレーニングの教科書を作成し、指導に活用しています。

院内では、第1回嚥下トレーニング教室を2016年5月12日(木)に開催いたします。参加費無料で10名様までの予約制ですので、患者さんで参加ご希望の方がおられるようでしたら、病院代表(078-261-6711)までお問い合わせください。

また、嚥下機能の低下が原因で、のどの症状があらわれることが知られています。神鋼記念病院耳鼻咽喉科では、嚥下機能を改善し、のどの症状をよくするための「嚥下トレーニング外来」を開設しています。

嚥下トレーニングの一例

大切なのは継続してトレーニングすることです。「飲みこみ力」を維持して快適な生活を送りましょう。



① 喉頭の形状と位置を理解する(図1)

くびを触りながら、飲みこむと動く部分が喉頭(甲状軟骨)です。喉頭の上方に、喉頭を挙上する筋肉が付着する舌骨があります。

② 喉頭を反射に頼らず、自覚的に動かす(図1)

ひとは、一日500~1,000回喉頭を挙上していますが、そのほとんどを反射的に行っています。最初は何かを飲みこんで、どうすれば喉頭を動かせるかコツを掴みます。コツが掴めたら、飲みこむことを意識せず、喉頭を動かせるようになります。



③ 喉頭を上げた状態で止める(図2)

喉頭を意識的に動かせるようになったら、喉頭を上げた状態で止めます。10秒止められるまでトレーニングを続けます。自覚的に喉頭を動かさなくても、液体を飲んだついでに喉頭を上げて止めてもかまいません。

④ 最後に大きくお腹から息を吐く

嚥下と呼吸には深い関係があります。腹式呼吸を行うことで、呼吸機能を鍛えます。

図は『健康長寿は「飲みこみ力」で決まる! 100歳まで「食」を楽しむための嚥下トレーニング』(浦長瀬昌宏著 メイツ出版)より引用

【抗菌薬の適正使用とは?】

Vol.9からVol.13まで、抗菌薬の適正使用のために注意すべき5つのポイントについてお話してきました。まとめると「使わなくてもいい時は使わない。使う時は状況に応じた第一選択薬を選び、投与量と治療期間を適切に設定すること、つまり「一例一例きちんと診断しきちんと治療すること」が“抗菌薬の適正使用”であるということになります。

ここまで読まれた方の中には“抗菌薬の適正使用”に対するイメージが大きく変わった方もいらっしゃるのではないのでしょうか? 「経口抗菌薬や狭域抗菌薬は気軽に使っても構わない。カルバペネムのような広域抗菌薬を使わないように注意さえすればよい。抗菌薬は出来るだけ少ない投与量で短期間し

か使ってはいけない。同じ抗菌薬を2週間以上も使うなんてけしからん!」というのは大きな誤解です。長期間の広域抗菌薬治療が必要な然るべき根拠があれば、自信を持って広域抗菌薬を長期間使うべきです。大した根拠が無ければ、経口抗菌薬や狭域抗菌薬の短期間使用であっても控えなくてはならないのです。

虎の子の貯金を使うのは、奥様を説得できる然るべき根拠がある場合、必要十分な額に限られるのではないのでしょうか? 虎の子の貯金を使う様に抗菌薬を使って頂きたいと思います。

開業医探訪
inquires into a doctor
Vol.25

【内科・循環器内科】

医療法人社団 竹内内科

今回はJR六甲道駅から北へ徒歩5分、循環器疾患を中心とした診療に注力する「竹内内科」を訪問致しました。

■ 診療を開始されてどれくらいになりますか?

私自身は循環器内科医として平成9年に開業致しました。父が昭和37年より小児科医として開業しておりましたので、50年以上の歴史があります。

■ どのような患者さんが来院されますか?

父の代にお子さんを連れて来られていた親御さんが来られます。また、神戸大学病院時代に診ておりました患者さんが、兵庫県内をはじめ遠方から来られます。疾患としては、プライマリーケアはもちろんですが、循環器分野と生活習慣病を中心とした専門外来に近い診療も行っています。

■ 診療にあたり心掛けていることは何ですか?

心房細動は脳梗塞頻発となる疾患であり、多くの人が高血圧の既往をお持ちです。脳梗塞や循環器疾患の一次・二次予防に努め、当院から心筋梗塞や脳梗塞の患者さんが出ないように日々努力しています。また、そのための病診連携・診診連携の重要性を感じながら診療しています。

■ ひとこと

現在、神戸大学循環器内科を中心とした「兵庫心房細動ネットワーク(HAF-net)」活動の普及に取り組んでいます。かかりつけ医や抗凝固薬の服用状況などを記載した『参加カード』を患者さんに携帯してもらい、脳梗塞発症や心不全重症化の際に治療を受けている病院との情報共有がスムーズにできるように目指しています。多くの患者さんにぜひ携帯頂き、安心頂けるネットワーク作りが出来ればと思っています。

information

- 神戸市灘区八幡町2-1-29
- TEL: 078-851-9786
- 診療科: 内科・循環器内科
- 休診日: 木・土曜日午後、日曜・祝日
- 診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
16:00~19:00	○	○	○	×	○	×

